

glafit®

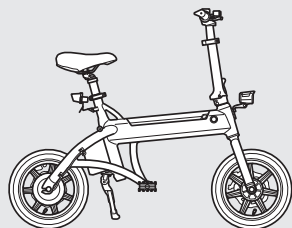


電動サイクル

NFR-01 **Lite**

取扱説明書

⚠ ご使用前には必ず取扱説明書をよく読んでください。



glafit®

移動を、タノシメ!

glafitは、移動を、ただそれだけでは終わらせない ——。

移動することは、本来楽しくて、面白くて、うれしいこと
だったはず。

私たち glafit (グラフィット) は、ユーザーの「乗りたい!」を
カタチとして創造する企業です。

glafit が作った「電動サイクル NFR」、[HYBRID BIKE GFR] や
[X-SCOOTER LOM] は 100%電動で、モーター駆動。

glafit の製品に乗ると、ガソリンエンジンで走っていた時には
聞こえなかった鳥のさえずりや川の音が聴こえて、走り慣れ
たいつもの道がまったく違う体験になるんです。

移動がつまらない?

それなら、私たちの製品で、あなたの日常をアップデート
しませんか?

人々の生活に FIT する新しい移動体験を届ける。

それが glafit の使命です。



はじめに

電動サイクル NFR-01 Liteをご購入いただき、まことにありがとうございます。

取扱説明書をよくお読みの上、安全に正しくお使いください。

- 当製品は、予告なく仕様、デザインを変更する場合がありますので、一部実車と異なる場合があります。

特徴

当製品は、モーターを動力とする、特定小型原動機付自転車(特定小型原付)です。特定小型原付は、2023年7月から、道路交通法が改正され、新たに定められた車両区分です。

特定小型原付の特徴は、以下の通りです。

- 16歳以上であれば、運転をする際に運転免許が不要
- ヘルメット着用の努力義務
- 自賠償保険証書の携帯義務
- 車道通行が可能(車道専用モード使用：最高速度20km/h以下)
- 自転車が行可能な歩道の通行が可能(歩道可モード使用：最高速度6km/h以下)

特定小型原付は、自転車とバイクの中間に位置する新たな車両です。歩道を走行することもできるため、都市部での移動手段として注目されています。

しかし、免許が不要でも、道路交通法などの交通ルールは守らなければなりません。特定小型原動機付自転車は、定められた速度での走行、一時停止や信号の遵守、酒気帯び運転の禁止など、原動機付自転車と同じ交通ルールが適用されます。

安全に関する表示

運転される方、その周囲の他の方々への傷害や、財産の損害を未然に防止するため、安全に関する下記の表示をしています。

表示の内容をよくご理解のうえ、取扱説明書をお読みください。



この表示の内容に従わないと、人の死亡もしくは重傷を負う可能性が高いことを意味しています。



この表示の内容に従わないと、人の死亡もしくは重傷を負う可能性があることを意味しています。



この表示の内容を無視し、誤った使い方をすると人が傷害を負ったり、物的損害が発生する危険性があることを意味しています。



正しい使い方のポイントを示しています。

目次

安全のために	4
製品の確認	6
各部の名称	7
最初に運転するとき	12
各部の操作	17
運転前点検	36
運転	40
車両の折り畳み・組み立て	44
点検・整備	49
トラブルシューティング	58
運搬・保管・廃棄	59
車両情報	62
索引	62
お問い合わせ	66

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

安全のために

1

ここでは特に守っていただきたいことや、知っておいていただきたいことを記載しています。以下の内容をよく読み運転してください。

運転者の年齢制限があります

16歳未満の者が特定小型原付を運転することは法律で禁止されています。また、16歳未満の者に特定小型原動機付自転車を提供することも法律で禁止されています。

ナンバープレートの取り付け、自賠責保険に加入してください

- ナンバー登録及び取り付けが必要です。
- 自動車損害賠償責任保険（自賠責保険）へ加入が必要です。

ヘルメットを着用してください

- 運転する際は交通事故の被害を軽減するために、ヘルメットを着用してください。
- ヘルメットはサイズに合った、適切なものを着用してください。
- ヘルメット着用時は、あごひもをしっかりと締めてください。
- ゴーグルやヘルメット・シールド等は、視界を妨げない範囲で装着し、眼の保護をしてください。
- 二輪車で、安全基準を満たしている SG マーク、PSC マークもしくは JIS マークのあるヘルメットの着用を推奨します。

安全な服装で運転をしてください

- 体の露出が少ない長そで、長ズボンを着用してください。
- 肩、肘、膝などへのプロテクターの装着を推奨します。
- 滑りにくい革製グローブの着用を推奨します。

警告

- 車輪などへの巻き込みを防ぐため、裾の広いズボン、長いスカート等は着用しないでください。
- 長いマフラーは、車輪などに巻き込まれてしまう可能性があるため、着用しないでください。
- ブレーキランプ、ウィンカー、ナンバープレートは、常に見える状態にする必要があります。コート等丈の長い衣服を着用する際は、衣服がブレーキランプ、ウィンカー、ナンバープレートを隠さないように注意してください。
- ヒールなどかかとの高い靴を着用しないでください。
- サンドルやすべりやすい靴は、足がステップからはずれ、転倒するおそれがありますので着用しないでください。

運転する際は以下を順守してください

- 特定小型原動機付自転車に求められる道路交通法上のルールと交通マナーを守り走行してください。
- 本製品は、一般の道路環境での適切な使用を想定しています。2人乗、競争、重量物の積載、凹凸面・段差の激しい路面・障害物のある場所などでの運転や危険な使用はしないでください。
- ハンドルバーを両手でしっかりと握ってください。片手運転はしないでください。
- 運転中はスマートフォン等携帯電話を見たり、操作しないでください。法律で禁止されています。スマートフォンホルダー等を使用した場合でも、必ず安全な場所で停車してから確認や操作をしてください。
- 傘をさしながらの運転はしないでください。法律で禁止されています。
- ハンドルポストやシートポストに荷物を吊り下げないでください。車両の破損につながるおそれがあります。
- 両足はステップにしっかりと乗せてください。
- 急発進、急ブレーキ、急なハンドル操作といった急激な操作はしないでください。たいへん危険です。
- 歩道を走行する際は、必ず「歩道可モード」で走行してください。
- 歩行者を第一優先で、周囲に対し配慮した運転をしてください。また他の車両への安全に配慮した運転を心がけてください。

雨天の運転

- 電動サイクル NFR-01 Lite は完全防水ではありません。
- 雨の降り方や雨天時の車両の使い方により、故障する可能性があります。
- 水たまりを避けて走行してください。
- やむを得ず水たまりを走行する際は、十分減速し、歩行者等の周囲に水が跳ねないように気を付けてください。

転倒による事故を防ぐために

- 雨、風、雪の激しい時は運転しないでください。ブレーキが利かず、スリップにより転倒しケガのおそれがあります。
- 滑りやすい路面（濡れたり凍結している道、水たまりや積雪など）では運転しないでください。スリップにより、転倒しケガのおそれがあります。
- 路面状態の悪い所や段差の激しい所を運転しないでください。

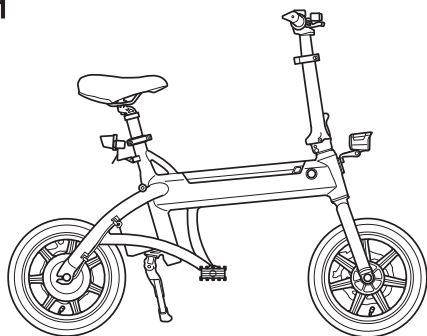
製品の確認

製品がお手元に届きましたら、下記のものが過不足無いことをご確認ください。
内容に問題がありましたら取扱店にご連絡ください。

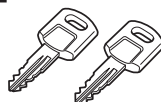
2

- | | |
|---------------|------------|
| 1 本体 | 4 バッテリー |
| 2 バッテリーキー（2本） | 5 バッテリー充電器 |
| 3 ワイヤロック | 6 保証書 |

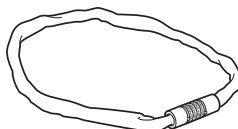
1



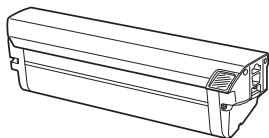
2



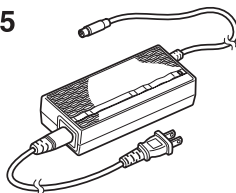
3



4



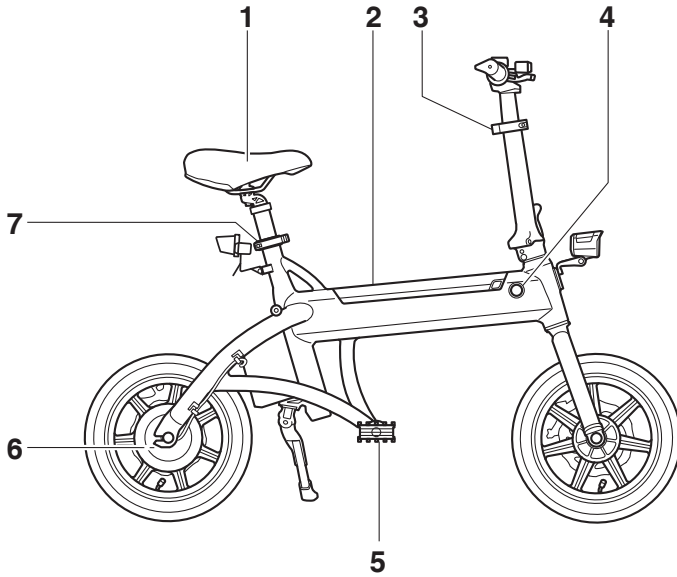
5



6



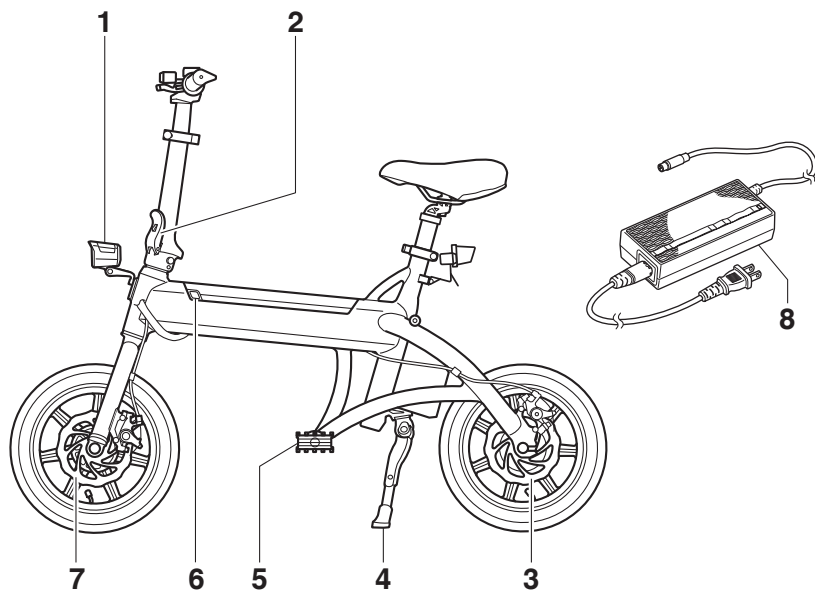
右側面



- 1 シート
- 2 バッテリー
- 3 ハンドル高さ調整レバー
- 4 バッテリーキー差込口
- 5 ステップ
- 6 モーター
- 7 シートポストクランプ

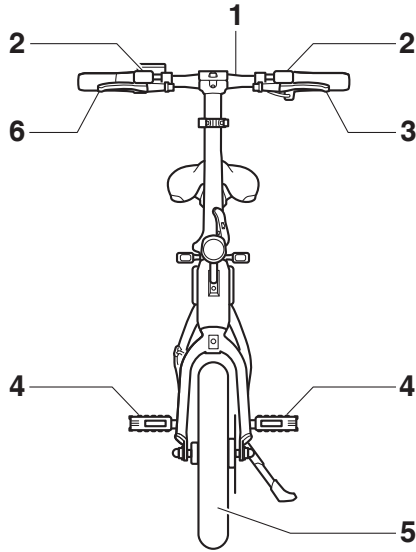
各部の名称

左側面



- 1 ヘッドライト/ホーン (ヘッドライト内部)
- 2 ハンドルポスト折畳レバー
- 3 後輪ブレーキディスク
- 4 サイドスタンド
- 5 ステップ
- 6 充電口
- 7 前輪ブレーキディスク
- 8 バッテリー充電器

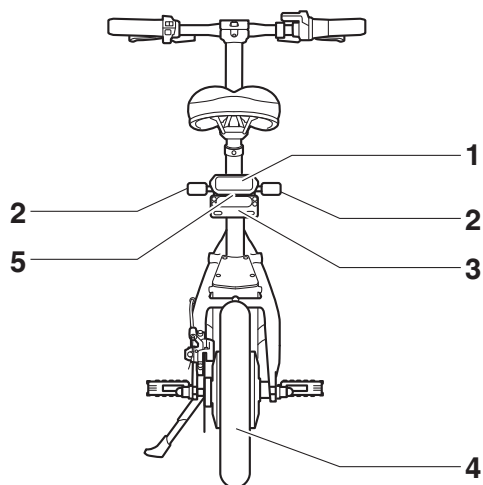
前面



- 1 ハンドルバー
- 2 前ウィンカー / 前最高速度表示灯
- 3 後輪ブレーキレバー
- 4 ステップ
- 5 前輪タイヤ
- 6 前輪ブレーキレバー

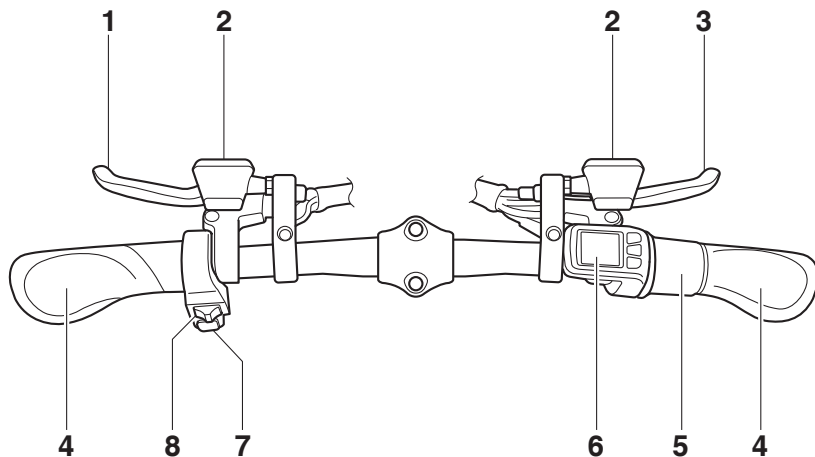
各部の名称

後面



- 1 テールランプ / ブレーキランプ
- 2 後ウィンカー / 後最高速度表示灯
- 3 リア反射板 / ナンバープレートステー
- 4 後輪タイヤ
- 5 ナンバーライト (白色LED)

ハンドルバー



- 1 後輪ブレーキレバー (左)
- 2 前ウィンカー / 前最高速度表示灯
- 3 前輪ブレーキレバー (右)
- 4 グリップ
- 5 スロットル
- 6 スロットルメーター (インフォメーション・ディスプレイ部)
- 7 ホーンボタン
- 8 ウィンカースイッチ

最初に運転するとき

当製品は特定小型原動機付自転車です。運転する場合には事前にナンバーの登録と取り付け、自賠責保険の加入が必要です。また、運転するときにはヘルメットを着用してください。

車両を安全に運転するために、以下の内容を必ず行ってください。

4

メモ

ナンバープレートの登録、自賠責保険の加入の詳細については、ヘルプセンターを参照してください。

ヘルプセンター：

<https://support.glafit.com/hc/ja>

ユーザー登録の実施

以下のアドレスまたは QR コードから glafit アプリを取得し、アプリよりユーザー登録、本人確認書類と自賠責証書のアップロード、及び交通ルールテストを受講して下さい。

glafit アプリ：

<https://support.glafit.com/hc/ja/articles/32583798806425>



ナンバープレートの登録

各自治体でナンバープレート登録の手続きをして、ナンバープレートを取得してください。

⚠ 注意

当製品は「特定小型原動機付自転車」です。ナンバープレートを取得しなければ運転できません。

自賠責保険への加入

自賠責保険への加入は法律で義務付けられています。

自賠責保険への加入申し込みは、自賠責保険取扱店、コンビニエンスストアなどでできます。

メモ

事故の程度によっては、自賠責保険だけでは費用が対応できない場合があります。そのため自賠責保険に合わせ任意保険への加入も推奨します。既に自動車保険にご加入の場合は、その自動車保険の特約で附帯されることもありますので、ご加入の自動車保険の窓口にお問い合わせください。

ヘルメットを用意

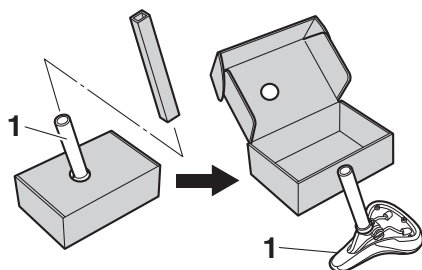
運転する際は、交通事故の被害を軽減するために、ヘルメットを着用してください。二輪車用ヘルメットをご用意ください。

最初に運転するとき

シート・シートポストの取り付け

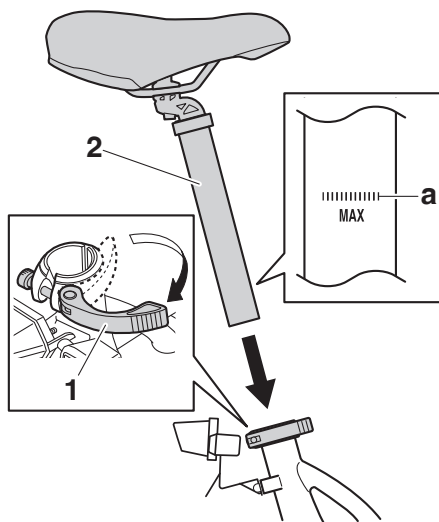
以下の手順で、シートとシートポストを車両に取り付けてください。

- 1 箱からシート・シートポストを取り出す。



- 1 シート・シートポスト

- 2 シートポストクランプを手前に引いて、シート・シートポストを取り付けます。



- 1 シートポストクランプ
- 2 シート・シートポスト

メモ

- シートの位置は、シートにまたがった状態で、両足のつま先が地面に接地する高さ調整してください。
- シートの高さは、シートポストの表示 (MAX) “a” を超えない範囲で調整してください。

危険

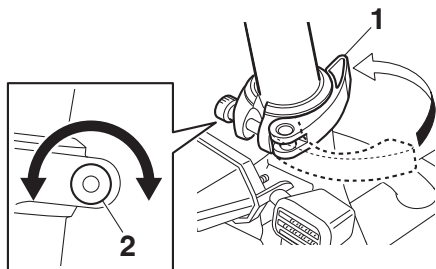
シートの高さを、シートポストの MAX 印の範囲を超えて固定すると、乗車中に破損する恐れがあります。必ず MAX 印を超えない範囲で調整してください。

最初に運転するとき

- 3** シートポストクランプを元の位置に戻します。

メモ

- シートを上から押さえ、シートが下がらないことを確認してください。
- シートポストクランプを元の位置に戻してもシート位置がしっかりと固定できない場合は、レバーが開いた状態でレバー調節ツマミを時計回りに回して調節してください。
- シートポストクランプが固く元の位置に戻し難い場合は、レバーが開いた状態でレバー調節ツマミを反時計回りに回して調節してください。



- 1 シートポストクランプ
2 レバー調整ツマミ

自賠責保険証の携帯

携帯方法

自賠責保険証は、アプリに保存された画像データとして携帯します。

メモ

- 自賠責保険証の原本は紛失しないよう、ご自宅で大切に保管してください。
- 自賠責保険を更新した際は、アプリから最新の保険証画像を再アップロードし、常に最新の状態を維持してください。

提示義務

運転者がスマートフォンを忘れて、電池切れで自賠責保険証を提示できない場合、自動車損害賠償保障法（自賠法）に違反することになりますので、ご注意ください。

法的背景について

自動車を運行する際は、「自動車損害賠償責任保険証明書」または「自動車損害賠償責任共済証明書」（以下「自賠責保険証」）を備え付けることが義務付けられています。しかし、小型モビリティ（電動キックボード等）のように書面の携行が難しい場合、「e-文書法」に基づき、自賠責保険証の画像データをスマートフォン等の端末に保存し、携行することが認められています。

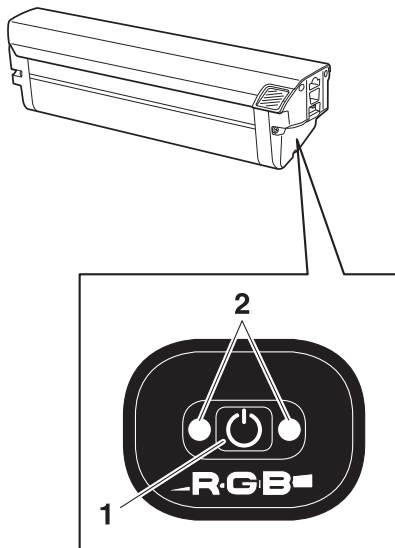
最初に運転するとき

バッテリーの起動

車両お届け時には、バッテリーが休止状態になっているため、そのままではご利用できません。

車両を初めて利用する前に、以下の手順に従って、バッテリーを起動してください。

- 1 バッテリーの残量表示ボタンを、インジケータ LED が点灯するまで長押しします。



- 1 残量表示ボタン
- 2 インジケータ LED

- 2 バッテリーのインジケータ LED が点灯すれば、バッテリーの起動完了です。

メモ

一度インジケータ LED が点灯すればバッテリーはご利用可能になりますが、走行前には充電することを推奨します。

- 3 バッテリーを車両へ取り付けます。

メモ

バッテリーの取り付けは、23 ページ「バッテリーの取り付け」を参照。

最初に運転するとき

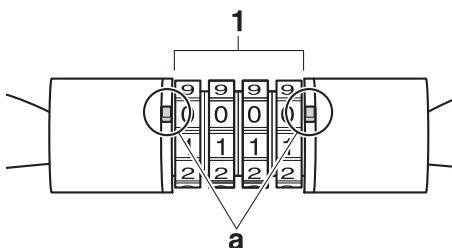
ワイヤーロックの解錠番号の設定

ワイヤーロックは、お好みの解錠番号に設定できます。

- 1 ワイヤーロックの突起“a”に合わせて、ダイヤルを解錠番号にセットします。

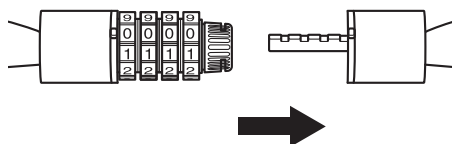
メモ

- 出荷時の解錠番号は車両ごとに異なります。
- 出荷時の解錠番号はアプリからご確認くださいだけです。



1 ダイヤル

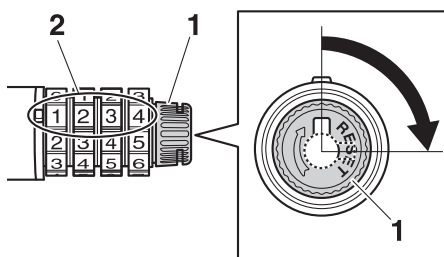
- 2 ワイヤーロックを解錠します。



- 3 セットダイヤルを時計方向に 90° 回転させて、ダイヤルをお好みの 4 ケタの番号に設定します。

メモ

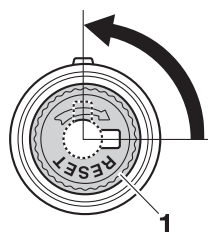
設定した 4 ケタの番号を忘れないように、必ずメモしておいてください。



1 セットダイヤル

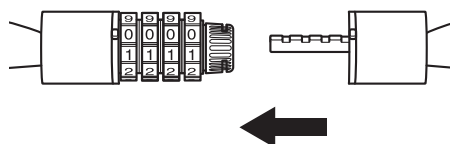
2 ダイヤル

- 4 セットダイヤルを反時計方向に 90° 回転させて、元の位置に戻します。



1 セットダイヤル

- 5 ワイヤーロックを施錠します。



インフォメーション・ディスプレイ

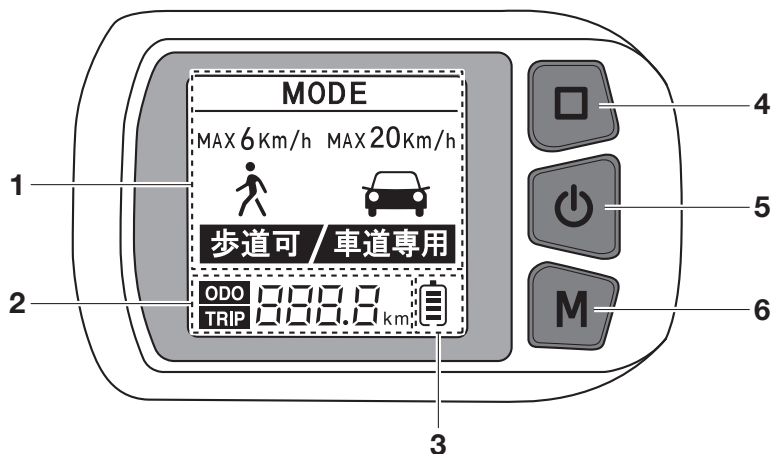
以下の機能があります。

- パワーのオン・オフ
- 走行モード表示
- 走行モードの切り替え
- バッテリー残量目安表示
- バッテリー電圧表示
- オドメーター（総走行距離表示）
- トリップメーター（走行距離表示）

警告

5

バッテリーの残量の確認や、表示の切り替えは必ず停車中に行ってください。



- 1 走行モード表示
- 2 走行距離 / バッテリー電圧表示
- 3 バッテリー残量目安表示
- 4 表示切替ボタン
- 5 パワースイッチ
- 6 走行モード切替ボタン

各部の操作

パワースイッチ

⚠ 注意

走行中にパワースイッチの操作をしないでください。

パワースイッチを長押しする（約2秒間押し続ける）ことで、パワーのオン/オフができます。

📖 メモ

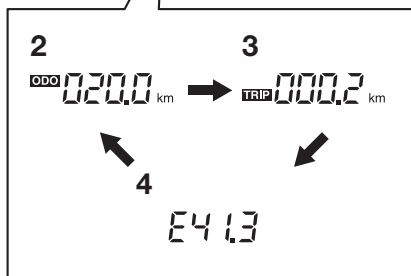
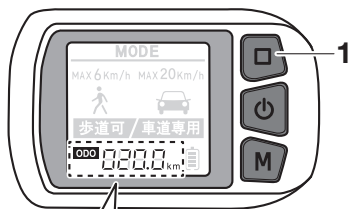
特定小型原動機付自転車は走行時には、日中でも灯火類の点灯が義務付けられています。



1 パワースイッチ

表示切替ボタン

表示切替ボタンを押すごとに、走行距離 / バッテリー電圧表示が、オドメーター→トリップメーター→バッテリー電圧表示→オドメーターの順で切り替わります。



- 1 表示切替ボタン
- 2 オドメーター（総走行距離表示）
- 3 トリップメーター（走行距離表示）
- 4 バッテリー電圧（V）表示

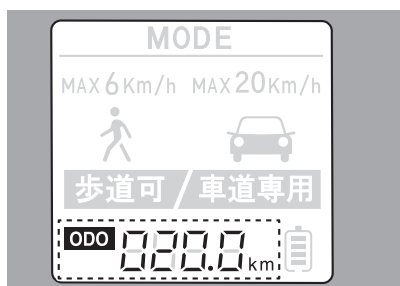
各部の操作

オドメーター

走行した総距離を表示します。

メモ

オドメーターはリセットできません。



トリップメーター

パワーをオンした所からの走行距離を表示します。

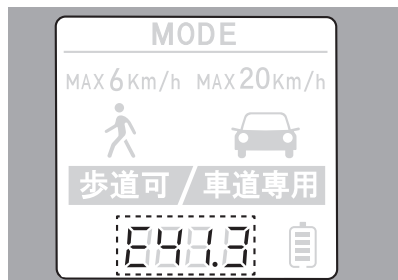
メモ

トリップメーターは、パワーオフするごとにリセットされます。



バッテリー電圧表示

バッテリーの電圧 (V) を表示します。

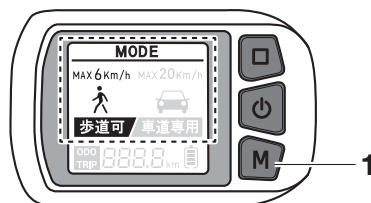


走行モード切替ボタン

停車中にブレーキレバーを握っている状態で、走行モード切替ボタンを押すごとに、走行モードが歩道可 → 車道専用 → 歩道可の順で走行モードが切り替わります。

メモ

- パワーをオンしたときは、常時歩道可モードになります。
- 走行モードの切り替えは、停車中にブレーキレバーを握った状態で行ってください。





1 走行モード切替ボタン

各部の操作

走行モード表示






選択している走行モードを表示します。
表示モードと走行方法は以下の通りです。

	歩道可モード	車道専用モード
表示モード	MAX 6km/h  歩道可	MAX 20km/h  車道専用
最高速度表示灯	点滅	点灯
最高速度	6km/h	20km/h
通行可能道路	<ul style="list-style-type: none"> 路側帯 自転車走行可の歩道 車道 自転車専用道路 自転車専用通行帯 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車専用道路 車道 自転車専用通行帯

バッテリー残量目安表示

バッテリーの残量の目安を表示します。
表示とバッテリー残量の目安は以下の通りです。



表示	バッテリー残量
	約 100 ~ 75%
	約 75 ~ 50%
	約 50 ~ 25%
	約 25 ~ 5%
	約 5%~

メモ

表示が 0 ~ 1 個点灯の場合は充電を推奨します。

バッテリー

バッテリーは、リチウムイオン電池を使用しています。

バッテリーの取り扱い

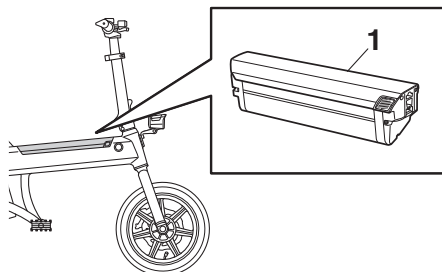
バッテリーの取り扱いは、火災や感電を防ぐため下記のことにご注意ください。

警告

- バッテリーを当製品以外に使用しないでください。
- バッテリーは、落下や破損しないよう、取り扱いには十分ご注意ください。落下、破損により火災の恐れがあります。
- バッテリー本体は平らな形状で滑りやすい材質でできています。しっかりと手で持ち、取り扱いには十分注意してください。
- バッテリーを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- バッテリーに水をかけたり、水の中に入れないでください。
- バッテリーを分解しないでください。
- バッテリーを加工、改造などをしないでください。
- バッテリーを火気に近づけないでください。
- バッテリー外装に破損があったり、凹みがあった場合は使用しないでください。

注意

- バッテリーは、車体に入れたまま長期間放置すると、バッテリーの電圧が充電できないほど下がり、使用できなくなる恐れがあります。
- バッテリーは、車体から抜いた状態でも自然放電します。車体から抜いて保管する場合も、最低1ヶ月に一度は、補充電をしてください。

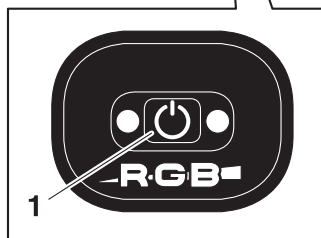
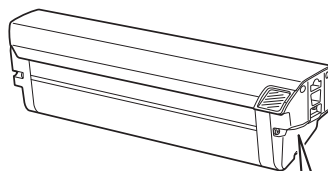


1 バッテリー

バッテリーインジケーター

バッテリー本体にあるバッテリーインジケーターは、LED（赤・緑・青）の点灯と消灯で、バッテリー残量の目安を表示します。

バッテリー残量を確認するときは、残量表示ボタンを押します。







1 残量表示ボタン

各部の操作

バッテリーインジケータのLEDの点灯色で、バッテリーの残量を確認できます。

メモ

残量表示ボタンを押している間のみ、バッテリーインジケータLEDが点灯します。

表示	バッテリー残量
	青 ↑ 多い 満充電
	緑
	赤 ↓ 少ない
	無し

- ：青点灯
- ：緑点灯
- ：赤点灯
- ：消灯

バッテリーの取り外し

⚠ 注意

バッテリーを取り外す際は、必ずパワーオフした状態で作業をしてください。

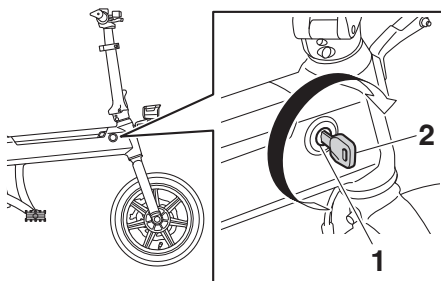
- 1 フレーム右側にあるバッテリーキー差込口に、バッテリーキーを差し込み、キーを右に回してロックを解除します。

⚠ 注意

ロックを解除しないままバッテリーを抜こうとすると、破損の恐れがあります。

メモ

バッテリーキーは予備を含め2本が付属されています。なくさないようにしてください。

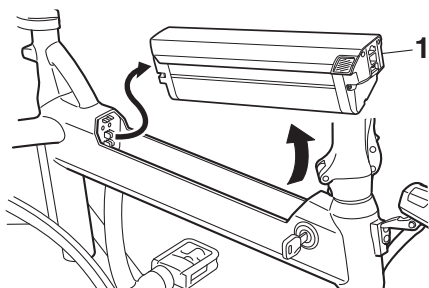


- 1 バッテリーキー差込口
- 2 バッテリーキー

2 フレームからバッテリーを取り外します。

警告

バッテリー外装は滑りやすい材質です。バッテリーを車両から抜き取る際は、低い姿勢で行ってください。誤って高い位置からバッテリーが落下した場合に、破損・火災の恐れがあります。



1 バッテリー

バッテリーの取り付け

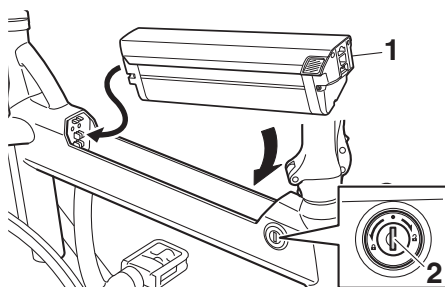
1 バッテリーをフレームに取り付ける。

警告

バッテリー外装は滑りやすい材質です。バッテリーを車両に入れる際は、低い姿勢で行ってください。誤って高い位置からバッテリーが落下した場合に、破損・火災の恐れがあります。

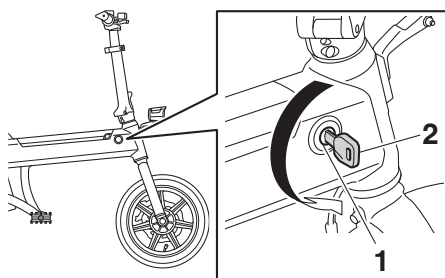
メモ

- バッテリーを取り付ける前に、バッテリーキー差込口の位置が中央にあることを確認してください。
- バッテリーは後ろ側からフレームに取り付け、前側をカチッと音がするまで押しつけて確実に取り付けてください。



1 バッテリー
2 バッテリーキー差込口

- ### 2
- バッテリーキー差込口に、バッテリーキーを差し込み、キーを左に回してロックをします。



1 バッテリーキー差込口
2 バッテリーキー

- ### 3
- バッテリーキーを取り外します。

各部の操作

バッテリーの充電 (バッテリー単体での充電)

バッテリーへの充電は、バッテリーを車両から取り外し、付属の専用充電器を使用して、ご家庭の AC コンセント (100 ~ 240V) からできます。

警告

- 充電器は、NFR-01 Lite のバッテリー以外で使用しないでください。
- 充電器は、充電完了後に自動で充電を停止しますが、安全のため充電終了後は AC コンセントからケーブルを抜いてください。
- 充電器から異臭や発煙がある場合には直ちにコンセントから抜き使用しないでください。
- バッテリーや充電器は、水に濡らしたり、濡れた手で触らないでください。
- バッテリーや充電器は、分解や改造をしないでください。

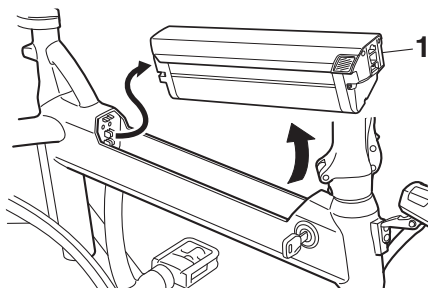
注意

- バッテリーの充電には、付属の NFR-01 Lite 専用充電器以外は使用しないでください。
- 充電器は充電中の状況によって、高温になります。充電器に触らないでください。温度の高い場所や燃えやすいものの近くでバッテリーを充電しないでください。また、温度が高くなることで、変色や変形する可能性のあるものの近くに、充電器を置かないでください。
- 車両がパワーオンの状態で充電しないでください。

1 バッテリーを車両から取り外します。

メモ

バッテリーの取り外しは、22 ページ「バッテリーの取り外し」を参照。

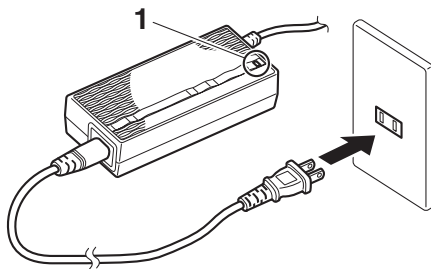


1 バッテリー

2 充電器のプラグを AC コンセントに接続します。

メモ

充電器をコンセントに接続した際、充電器のインジケータ LED ランプが緑色に点灯していることを確認します。



1 インジケータ LED

各部の操作

- 3 バッテリーに充電器を接続し、充電を開始します。
- 4 充電器をバッテリーから取り外します。
- 5 バッテリーを車両に取り付けます。

メモ

- 充電コネクタをバッテリーに挿すときに、火花が発生する場合があります。
- 充電器をバッテリーに接続すると自動で充電を開始します。
- 充電中は充電器のインジケータ LED ランプが赤色に点灯します。
- 充電時間は満充電で約 5 時間です。
- 充電が完了すると充電器のインジケータ LED ランプが緑色に点灯もしくは点滅します。

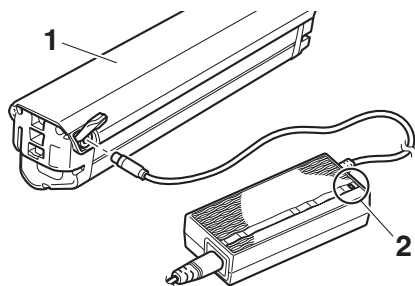
メモ

バッテリーの取り付けは、23 ページ「バッテリーの取り付け」を参照。

バッテリーの充電

バッテリーへの充電は、付属の専用充電器を使用して、ご家庭の AC コンセント (100 ~ 240V) からできます。

5



- 1 バッテリー
- 2 インジケータ LED

注意

充電中は、充電器本体が高温になりますので注意してください。

警告

- 充電器は、NFR-01 Lite のバッテリー以外で使用しないでください。
- 充電器は、充電完了後に自動で充電を停止しますが、安全のため充電終了後は AC コンセントからケーブルを抜いてください。
- 充電器から異臭や発煙がある場合には直ちにコンセントから抜き使用しないでください。
- バッテリーや充電器は、水に濡らしたり、濡れた手で触らないでください。
- バッテリーや充電器は、分解や改造をしないでください。

各部の操作

⚠ 注意

- バッテリーの充電には、付属の NFR-01 Lite 専用充電器以外は使用しないでください。
- 充電器は充電中の状況によって、高温になります。充電器に触らないでください。温度の高い場所や燃えやすいものの近くでバッテリーを充電しないでください。また、温度が高くなることで、変色や変形する可能性のあるものの近くに、充電器を置かないでください。
- 車両がパワーオンの状態で充電しないでください。

5

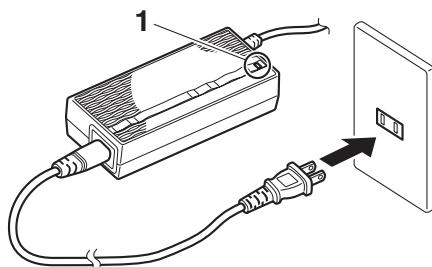
📖 メモ

- バッテリーは、車両に取り付けた状態でも、取り外した状態でも充電できます。
- バッテリーは充電と放電を繰り返すと消耗します。参考として 300 回の充電でバッテリー容量は 80%程度まで消耗します。

- 1 充電器のプラグを AC コンセントに接続します。

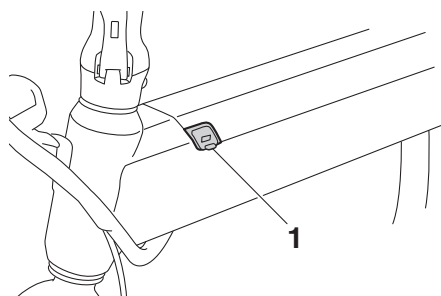
📖 メモ

充電器をコンセントに接続した際、充電器のインジケータ LED ランプが緑色に点灯していることを確認します。



1 インジケータ LED

- 2 キャップを取り外します。



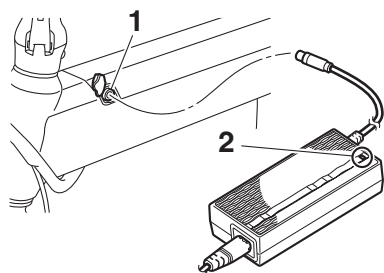
1 キャップ

- 3 車両のバッテリー充電口に充電器を接続します。

📖 メモ

- 充電コネクタを車両に挿すときに、火花が発生する場合があります。
- 充電器を車両に接続すると自動で充電を開始します。
- 充電中は充電器のインジケータ LED ランプが赤色に点灯します。
- 充電時間は満充電で約 5 時間です。
- 充電が完了すると充電器のインジケータ LED ランプが緑色に点灯もしくは点滅します。

各部の操作



- 1 充電口
- 2 インジケーターLED

⚠ 注意

充電中は、充電器本体が高温になりますので注意してください。

- 4 充電器を車両から取り外し、車両にキャップを取り付けます。

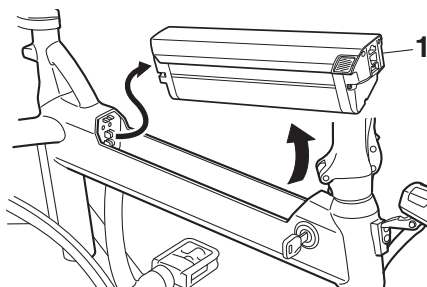
バッテリーの休止

車両を1ヶ月ご使用にならない場合は、バッテリーを保護するために、車両からバッテリーを取り外し、バッテリーを休止状態にしてください。

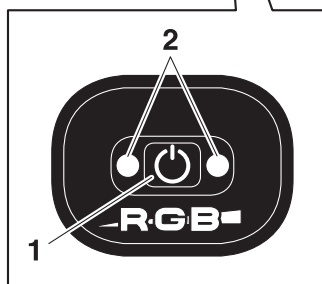
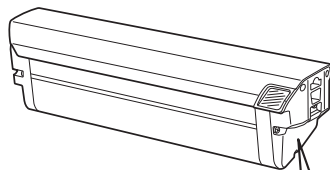
- 1 バッテリーを車両から取り外します。

📖 メモ

バッテリーの取り外しは、22ページ「バッテリーの取り外し」を参照。



- 1 バッテリー
- 2 バッテリーの残量表示ボタンを長押しします。
- 3 バッテリーの残量表示ボタンを押した際に、インジケーターLEDが点灯しないことを確認します。



- 1 残量表示ボタン
- 2 インジケーターLED

各部の操作

充電器

充電器の取り扱い、火災や感電を防ぐため下記のことにご注意ください。

警告

- 充電器は、NFR-01 Lite のバッテリー以外で使用しないでください。
- 充電器は、充電完了後に自動で充電を停止しますが、安全のため充電終了後はACコンセントからケーブルを抜いてください。
- 充電器から異臭や発煙、異常な発熱がある場合には直ちにコンセントから抜き使用しないでください。
- 充電器は、水に濡らしたり、濡れた手で触らないでください。
- 充電器は、分解や改造をしないでください。

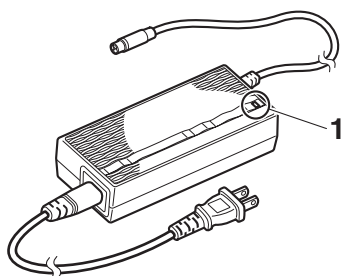
注意

- バッテリーの充電には、付属の NFR-01 Lite 専用充電器以外は使用しないでください。
- 充電器は充電中の状況によって、高温になります。充電器に触らないでください。温度の高い場所や燃えやすいものの近くでバッテリーを充電しないでください。また、温度が高くなることで、変色や変形する可能性のあるものの近くに、充電器を置かないでください。
- 車両がパワーオンの状態で充電しないでください。

付属の充電器は本製品専用の充電器です。充電器を、ご家庭の AC コンセント (100 ~ 240V) と車両のバッテリーに接続して充電します。

バッテリーの充電方法は、25 ページ「バッテリーの充電」を参照。

バッテリーへの充電状況は、充電器のインジケータ (LED ランプ) でわかります。



1 インジケータ LED

LED 色	点灯状況	充電状況
緑	点灯	待機中 (ACコンセント側のみ接続)
赤	点灯	充電中
緑	点灯または点滅	充電完了

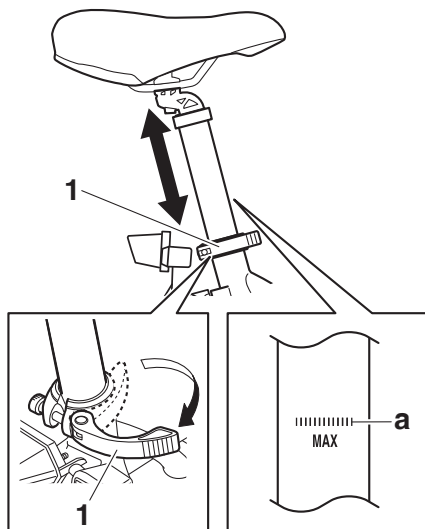
シート

シートの調整

- 1 シートポストクランプを手前に引いて、シートの高さを調整します。

メモ

- シートの位置は、シートにまたがった状態で、両足のつま先が地面に接地する高さに調整してください。
- シートの高さは、シートポストの表示(MAX) “a” を超えない範囲で調整してください。

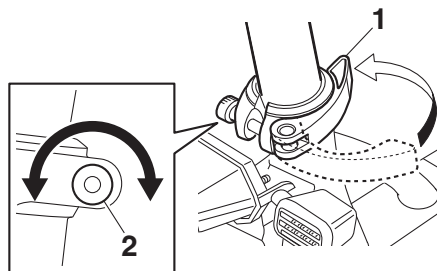


1 シートポストクランプ

- 2 シートポストクランプを元の位置に戻します。

メモ

- シートポストクランプを元の位置に戻してもシート位置がしっかりと固定できない場合は、レバーが開いた状態でレバー調整ツマミを時計周りに回して調整してください。
- シートポストクランプが固く元の位置に戻し難い場合は、レバーが開いた状態でレバー調整ツマミを反時計周りに回して調整してください。



- 1 シートポストクランプ
- 2 レバー調整ツマミ

⚠ 危険

シートの高さを、シートポストの MAX 印の範囲を超えて固定すると、乗車中に破損する恐れがあります。必ず MAX 印を超えない範囲で調整してください。

各部の操作

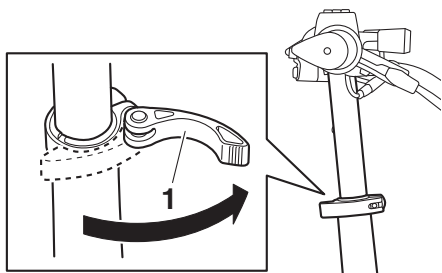
ハンドルバー

ハンドルバーは、使用者の好みに応じて高さを調節できます。

ハンドルバーの高さの調整

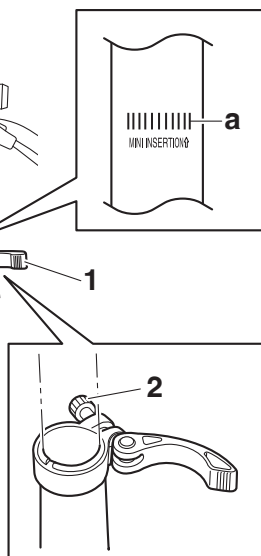
車両を運転する際は、ハンドルバーは正しい位置に調整してください。

- 1 ハンドル高さ調整レバーを手前に引きま



1 ハンドル高さ調整レバー

- 2 ハンドルバーの高さを調整して、ハンドル高さ調整レバーを元の位置に戻します。



1 ハンドル高さ調整レバー
2 レバー調節ツマミ

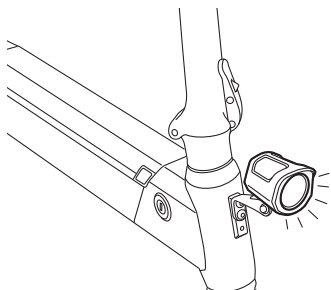
メモ

- ハンドルバーの高さは、ハンドポストの表示“a”を超えない範囲で調節してください。
- ハンドル高さ調整レバーを元の位置に戻してもハンドルバー位置がしっかりと固定できない場合は、レバーが開いた状態でレバー調節ツマミを時計周りに回して調節してください。
- ハンドル高さ調整レバーが固く元の位置に戻し難い場合は、レバーが開いた状態でレバー調節ツマミを反時計周りに回して調節してください。

ヘッドライト

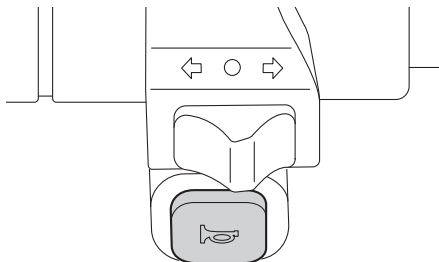
ヘッドライトは、パワーオンすることで、自動的に点灯します。

ヘッドライトは、法令により走行中は日中でも点灯することが義務づけられています。



ホーンボタン

ボタンを押すとホーンが鳴動します。ボタンを押している間、ホーンは鳴動し続けます。

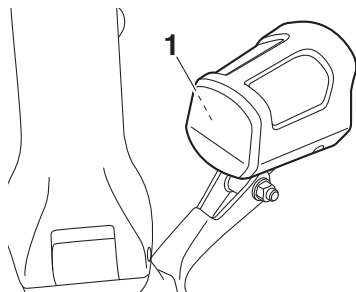


5

ホーン

ホーンは、ヘッドライト内部にあります。

ホーンボタンを押すと鳴動します。



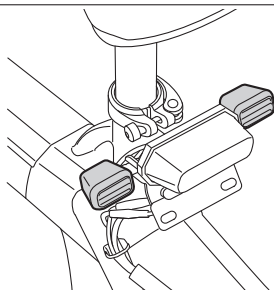
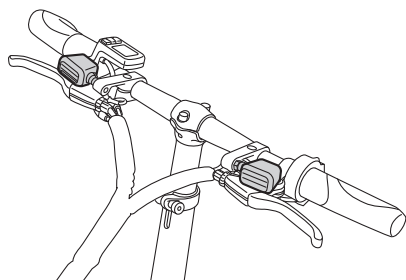
1 ホーン

各部の操作

ウィンカー / 最高速度表示灯

最高速度表示灯は、パワーオン状態で、歩道可モードのときは緑色に点滅、車道専用モードのときは緑色に点灯します。

ウィンカーは、ウィンカースイッチ（方向指示器）のスライドした方向がオレンジ色に点滅します。



ウィンカースイッチ（方向指示器）

ウィンカースイッチ（方向指示器）は進路変更の合図に使用します。

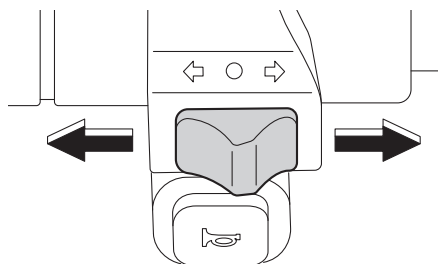
ウィンカースイッチを右にスライドすると、右ウィンカーが点滅します。

ウィンカースイッチを左にスライドすると左ウィンカーが点滅します。

ウィンカーを消灯する場合は、スイッチを中央の○印の位置に戻します。

⚠ 注意

ウィンカー点滅中も、ウィンカーは「カチカチ」といった作動音は鳴りません。ウィンカー指示の戻し忘れにご注意ください。

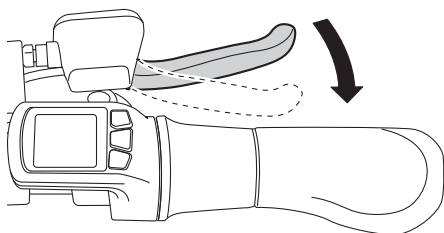


前輪ブレーキレバー

前輪ブレーキをかける際は、ハンドルバー右側のレバーを握ります。

⚠ 警告

ブレーキレバーを握るときにはスロットルから手を放してください。

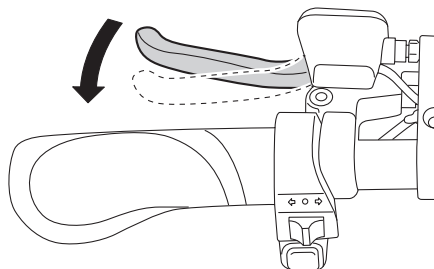


後輪ブレーキレバー

後輪ブレーキをかける際は、ハンドルバー左側のレバーを握ります。

⚠ 警告

ブレーキレバーを握るときにはスロットルから手を放してください。



5

スロットル

スロットルは、ハンドルバー右側グリップの左側とインフォメーション・ディスプレイの間にあります。

スロットルを、右手の人差し指と親指で挟み、手前方向に回すとスロットル・オンとなって、モーター走行ができます。

スロットルを戻すと速度が落ちます。

⚠ 危険

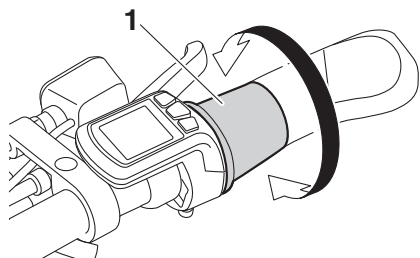
スロットル操作を誤ると急発進し、たいへん危険ですので慎重に操作してください。

各部の操作

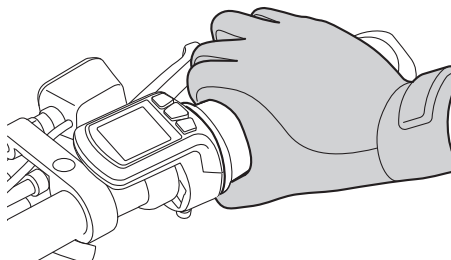
メモ

走行中にブレーキレバーを握ると、自動的にモーター出力が停止します。

5

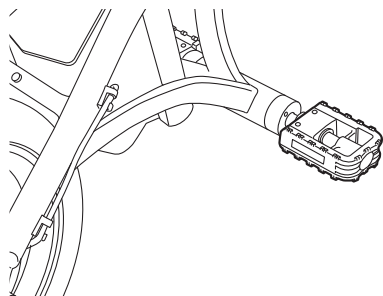


1 スロットル



ステップ

走行中に足を置きます。車両を折り畳む際は、ステップを折り畳みます。



サイドスタンド

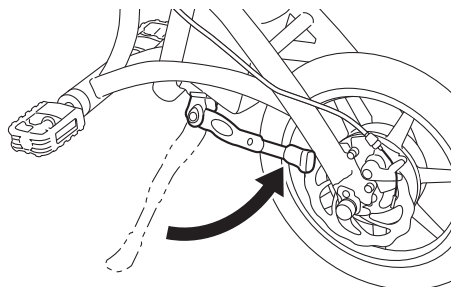
サイドスタンドは、駐車する際に使用します。また、走行する際にはサイドスタンドを足で蹴るなどして跳ね上げます。

走行時

走行時は、サイドスタンドを足で反時計回り方向に跳ね上げてください。跳ね上がったサイドスタンドは地面に対して水平方向の位置になります。

⚠ 危険

走行時は、確実にサイドスタンドを跳ね上げてください。走行中、段差や凹凸があるとサイドスタンドが接触し、たいへん危険です。



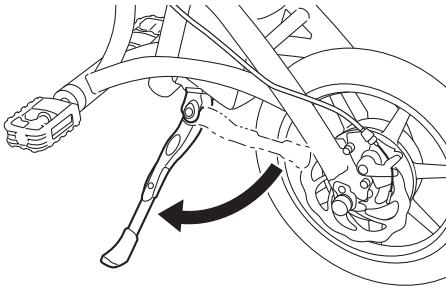
駐車時

平坦な場所で、跳ね上げられているサイドスタンドを、足で時計回り方向に下げてサイドスタンドを立ててください。

サイドスタンドは確実に立てて車両が倒れないようにしてください。

警告

サイドスタンドを立てた状態で荷重をかけるしないでください。サイドスタンドが破損する可能性があります。



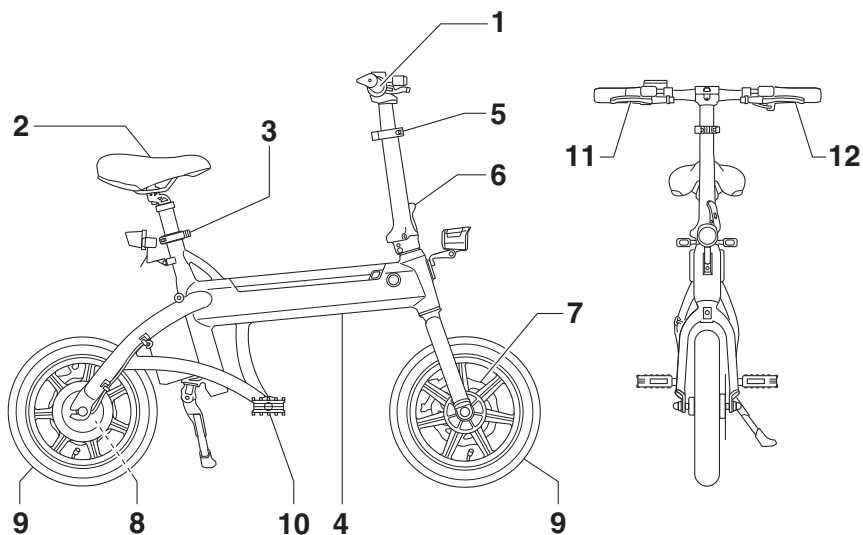
運転前点検

運転前には必ず点検を実施してから走行してください。
最初にパワーオフ状態で点検し、その後パワーオンした状態で点検作業を実施してください。

⚠ 注意

点検で異常が発見されたり、不明点が見つかった場合は、必ず取扱店へご相談ください。

パワーオフ状態での点検



運転前点検

No.	点検箇所	点検内容
1	ハンドルバー	センターが合っているか？ ガタついていないか？
2	シート	前後の向きが合っているか？ ガタついていないか？ 回転しないか？
3	シートポストクランプ	レバーはしっかりとロックされているか？シートが下がらないか？ 高さ が合っているか (MAX 印を超えない位置になっているか)？
4	フレーム	フレームに著しい外傷やたわみなどがいないか？
5	ハンドル高さ調整レバー	レバーがしっかりとロックされているか？ 下がらないか？ 高さが合っているか (表示を超えない位置になっているか)？
6	ハンドルポスト折畳レバー	レバーがしっかりとロックされているか？
7	前輪ブレーキ	ブレーキの動作に問題ないか？ ブレーキに異物等が挟まっていないか？ ブレーキパッドがすり減っていないか？
8	後輪ブレーキ	ブレーキの動作に問題ないか？ ブレーキに異物等が挟まっていないか？ ブレーキパッドがすり減っていないか？
9	タイヤ (前輪/後輪)	タイヤの溝がすり減っていないか？ (1 mm 以下になったら交換) タイヤに傷等はないか？ 空気が減ってないか？ [適正空気圧：250 kPa (2.5 bar)]
10	ステップ	ガタつきはないか？ 正しく取り付けられているか？
11	前輪ブレーキレバー	ブレーキレバーを握り、車両を前後に動かし前輪が回らないか？
12	後輪ブレーキレバー	ブレーキレバーを握り、車両を前後に動かし後輪が回らないか？

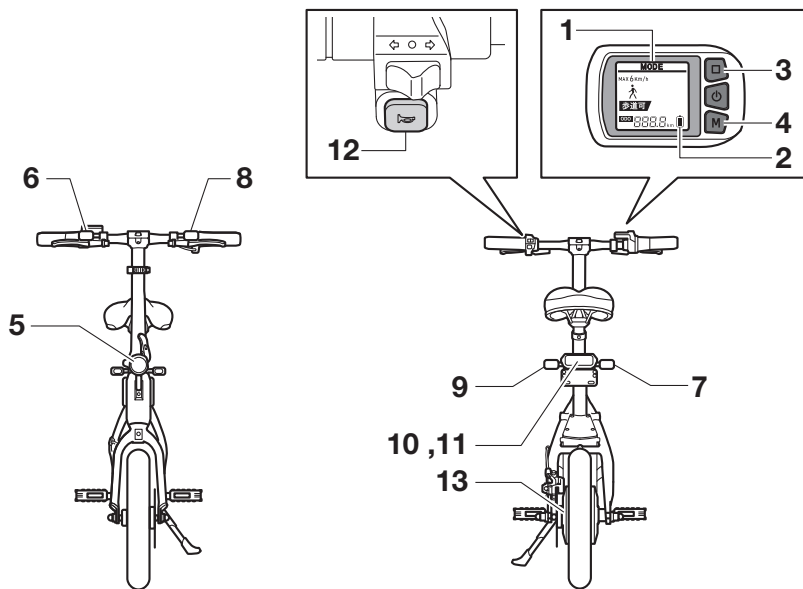
運転前点検

パワーオン状態での点検

⚠ 危険

パワーオン状態で、スロットルを回さないでください。
スロットルを回すと、車両が動き出してたいへん危険です。

6



運転前点検

6

No.	点検箇所	点検内容
1	インフォメーション・ディスプレイ	液晶画面のバックライトが点灯し、ディスプレイが表示されているか？
2	バッテリー残量目安表示	バッテリー残量目安表示を確認し、残量表示が0～1個の場合は走行距離が短くなるので充電してください。
3	表示切替ボタン	ボタンを押して表示内容が切り替わっているか？ (切り替わり内容は、18 ページ「表示切替ボタン」参照)
4	走行モード切替ボタン	ブレーキレバーを握っている状態で、ボタンを押して表示内容が切り替わっているか？ (切り替わり内容は、19 ページ「走行モード切替ボタン」参照)
5	ヘッドライト	点灯しているか？
6	右前ウィンカー / 最高速度表示灯	歩道可モードのときに右前 最高速度表示灯が緑色に点滅、車道専用モードのときは緑色に点灯しているか？ ウィンカースイッチを右にして、右前ウィンカーランプが点滅しているか？
7	右後ウィンカー / 最高速度表示灯	歩道可モードのときに右後 最高速度表示灯が緑色に点滅、車道専用モードのときは緑色に点灯しているか？ ウィンカースイッチを右にして、右後ウィンカーランプが点滅しているか？
8	左前ウィンカー	歩道可モードのときに左前 最高速度表示灯が緑色に点滅、車道専用モードのときは緑色に点灯しているか？ ウィンカースイッチを左にして、左前ウィンカーランプが点滅しているか？
9	左後ウィンカー	歩道可モードのときに左後 最高速度表示灯が緑色に点滅、車道専用モードのときは緑色に点灯しているか？ ウィンカースイッチを左にして、左後ウィンカーランプが点滅しているか？
10	テールランプ	テールランプが点灯しているか？
11	ブレーキランプ	右ブレーキレバーを握るとテールランプがより明るく点灯するか？ 左ブレーキレバーを握るとテールランプがより明るく点灯するか？
12	ホーン	ホーンボタンを押して、押している間ホーンが鳴動しているか？
13	モーター	スムーズに動くか？ 異音がないか？

運転

乗車

警告

- 乗車前に必ず運転前点検をしてください。運転前点検は、36 ページ「運転前点検」を参照。
- 運転席に着座しないなど走行しない時は、必ずパワーをオフにしてください。パワーオンの状態でスロットルを回すと、モーターが回ります。意図しない発進を防ぐため、運転席から降りる時や、押して歩くなどの場合も、必ずパワーをオフにしてください。

- 7
- 1 パワースイッチを長押しして、パワーをオンにします。

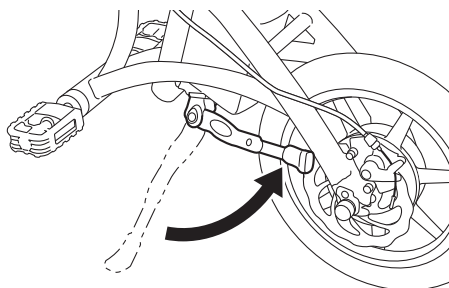


- 1 パワースイッチ

- 2 サイドスタンドを跳ね上げます。

警告

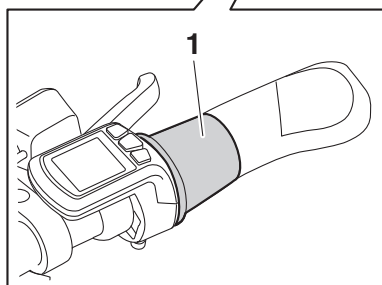
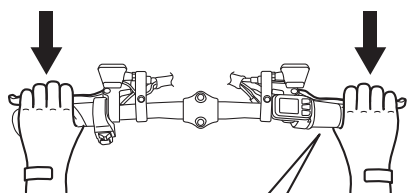
運転する際は、確実にサイドスタンドを跳ね上げて走行してください。段差等でサイドスタンドが接触し、場合によっては転倒するおそれもあり、たいへん危険です。



- 3 左右のブレーキレバーをしっかりと握りながら、車両の左側からまたがるようにして乗車します。

⚠ 危険

乗車時、スロットルには絶対触らないでください。車両が動き出し危険です。



1 スロットル

走行

運転経験がない方は、最初は慣れが必要です。

少し慣らし運転をしてください。走行する際はスロットルの急激な操作をしないでください。

⚠ 警告

運転する際は、確実にサイドスタンドを跳ね上げて走行してください。段差等でサイドスタンドが接触し、場合によっては転倒するおそれもあり、たいへん危険です。

📖 メモ

- バッテリー残量目安表示が0～1個の場合は、充電をしてください。走行はできませんが、走行中にバッテリー切れになりパワーオフになる可能性があるためご注意ください。
- 要充電の状態でも、ヘッドライト、ウィンカー、最高速度表示灯、ブレーキランプ、ホーンは機能します。
- バッテリー容量がゼロになると、ヘッドライト、ウィンカー、最高速度表示灯、ブレーキランプ、ホーンが機能しません。この状況では整備不良となり、法令違反となりますので、直ちに運転を中止し（走行禁止）、充電をしてください。
- バッテリー残量によって、最高速度と最大出力は低下します。
- バッテリーの消耗は、運転者の体重、運転の仕方、走行状態、気温、気圧等で変化します。それによって走行可能距離や、最高速度は変化します。

運転

- 1 インフォメーション・ディスプレイを見て、走行モードを確認します。
- 2 インフォメーション・ディスプレイの走行モード切替ボタンを押して、好みの走行モードを選択します。

メモ

- 各走行モードについては、19 ページ「走行モード切替ボタン」を参照。
- 走行モードの切り替えは、停車中にブレーキレバーを握った状態で行ってください。

ブレーキ

ブレーキは、スロットルを戻した状態で前輪(右側ブレーキレバー)と後輪(左側ブレーキレバー)を同時に使ってください。

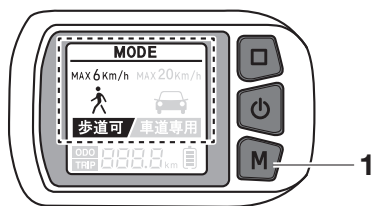
警告

- ブレーキレバーを握るときにはスロットルから手を放してください。
- ブレーキパッドは消耗品です。ブレーキの利きが悪くなった場合には交換してください。

注意

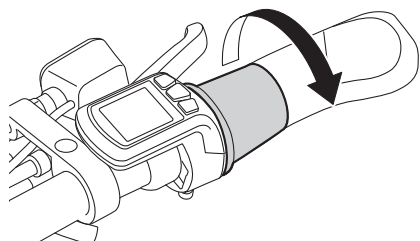
- 急ブレーキは、タイヤをロックさせてしまい、転倒するなど安定性を損なうおそれがありますのでご注意ください。
- ブレーキをかけたままの運転はしないでください。ブレーキの温度が上昇し、制動力が減少し、効きが悪化し危険です。

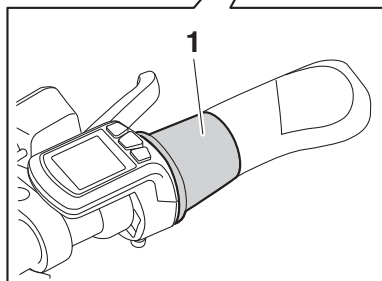
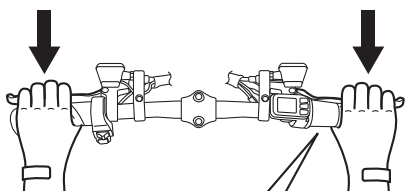
7



1 走行モード切替ボタン

- 3 スロットルを回して、発進します。





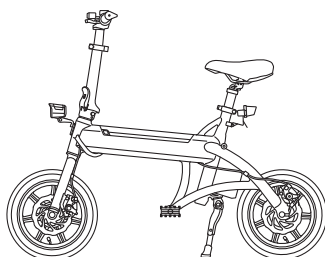
1 スロットル

駐輪

平坦な地面で、サイドスタンドを下げ、駐輪してください。また、盗難防止のためにも必ず施錠してください。

⚠ 注意

当製品は特定小型原動機付自転車です。駐輪する際は、駐車違反にならないよう、特定小型原付が駐輪可能なところへ駐輪してください。また、自転車専用駐輪場には駐輪できませんのでご注意ください。



車両の折り畳み・組み立て

車両の折り畳み

⚠ 注意

作業をする際は、くれぐれも手指をはさんだり、目にあたらぬように注意してください。

- 1 インフォメーション・ディスプレイのパワースイッチでパワーオフします。

📖 メモ

車両を折り畳む際は、必ずパワーオフしてください。

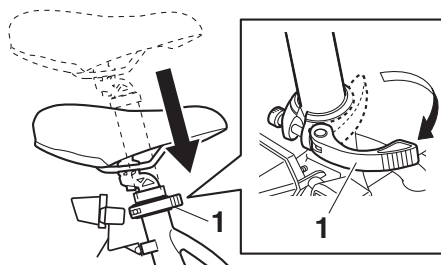


- 1 パワースイッチ

- 2 シートポストクランプを手前に引き、シートを一番下まで下げます。

📖 メモ

シート位置の変更後は、シートポストクランプを元の位置に戻してください。

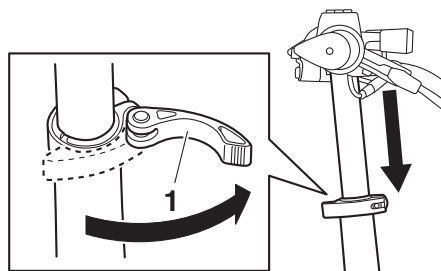


- 1 シートポストクランプ

- 3 ハンドル高さ調整レバーを手前に引き、ハンドルバーを一番下まで下げます。

📖 メモ

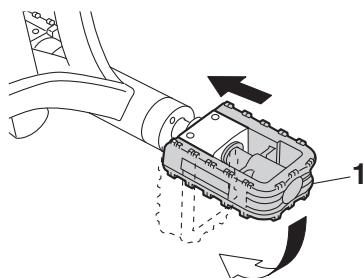
ハンドルバーの位置を変更後、ハンドル高さ調整レバーを元の位置に戻してください。



- 1 ハンドル高さ調整レバー

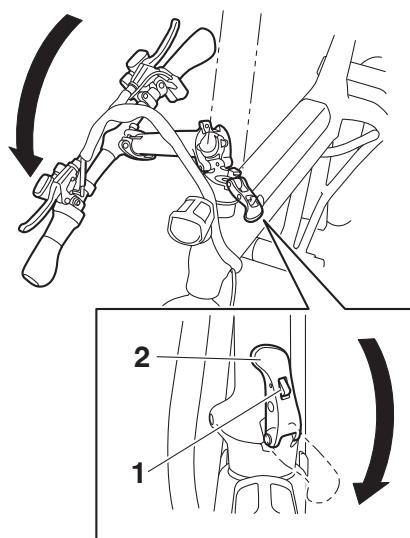
車両の折り畳み・組み立て

- 4 ステップを奥に押しながら折り畳みます。



1 ステップ

- 5 ハンドルポスト折畳レバーのスイッチを押しながら、ハンドルポスト折畳レバーを手前に引き、次にハンドルポストを車両右側に折り畳みます。



- 1 レバースイッチ
2 ハンドルポスト折畳レバー

⚠ 注意

ハンドルポストを折り畳む前に、バッテリーキーが車体に刺さっていないことを確認してください。刺さったまま折り畳むと、キーが折れる恐れがあります。

📖 メモ

- ハンドルポストを折り畳む際、ブレーキ線が引っかからないように気を付けてください。
- ハンドルポストを折り畳んだら、ハンドルポスト折畳レバーを元に戻します。

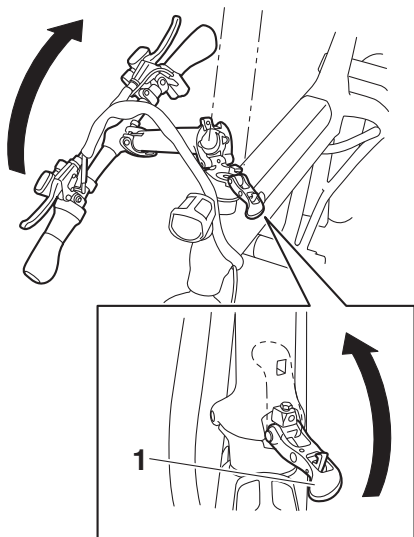
車両の折り畳み・組み立て

車両の組み立て

⚠ 注意

作業をする際は、くれぐれも手指をはさんだり、目にあたらないように注意してください。

- 1 ハンドルポスト折畳レバーを手前に引き、次にハンドルポストを立てます。
- 2 ハンドルポスト折畳レバーを上げて、カチッと音がするまでしっかりと押し込みます。

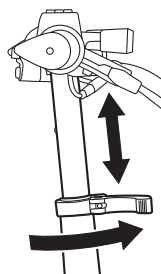


1 ハンドルポスト折畳レバー

- 3 ハンドルバーの高さを調整します。

📖 メモ

ハンドルバーの高さの調整は、30ページ「ハンドルバーの高さの調整」を参照。



車両の折り畳み・組み立て

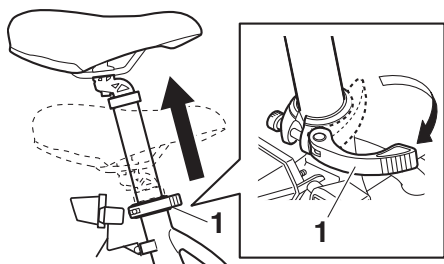
- 4 シートポストクランプを手前に引いて、シートの高さを調整します。

⚠ 危険

シートの高さを、シートポストのMAX印の範囲を超えて固定すると、乗車中に破損する恐れがあります。必ずMAX印を超えない範囲で調整してください。

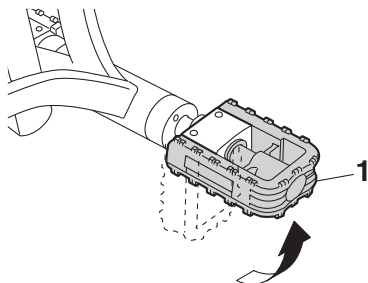
📖 メモ

シートの高さの調整は、29ページ「シートの調整」を参照。



1 シートポストクランプ

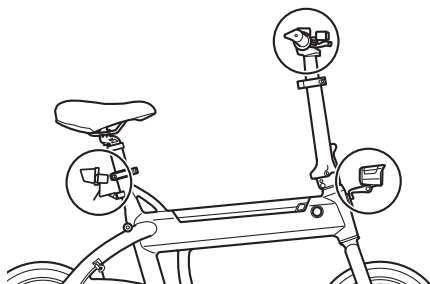
- 5 折り畳んでいる両側のステップを元の位置に戻します。



- 6 インフォメーション・ディスプレイ、ヘッドライト、ナンバーライト、テールランプの点灯を確認します。

📖 メモ

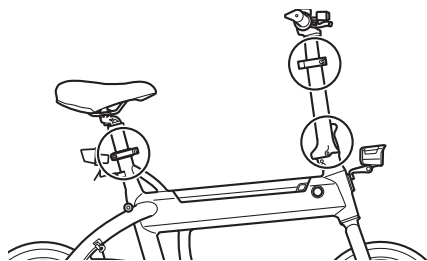
- 点灯しない場合は、バッテリーの取り付け、バッテリーの充電量、を確認してください。
- 走行前には運転前点検を行ってください。運転前点検の方法は、36ページ「運転前点検」を参照。



車両の折り畳み・組み立て

⚠ 危険

組み立て後は、シートポストクランプ、ハンドル高さ調整レバー、ハンドルポスト折畳レバーが確実にロックされていることを確認してください。走行中にこれらが緩むと転倒のおそれがあり、大変危険です。



点検・整備について

安全に車両をお使いいただくためにも、点検・整備は欠かさないでください。

点検には、日常的な日常点検・運転前点検と定期点検があります。

安全にお使いいただくために、点検・整備は必ず実施してください。

警告

不適切な点検や整備、故障箇所の未修理は、事故等トラブルを発生させる原因となります。トラブルの結果、人の死亡、もしくは重傷を負う可能性があります。正しく点検・整備を実施してください。



*1: 日常点検の方法は、50 ページ「日常点検」を参照。

*2: 運転前点検の方法は、36 ページ「運転前点検」を参照。

*3: 洗車の方法は、56 ページ「洗車」を参照。

定期点検

定期点検は、車両使用者の管理責任で定期的に行う点検整備です。

定期点検には、新車購入時に行う「1ヶ月点検」・「6ヶ月点検」と、定期的に行う「12ヶ月点検」・「24ヶ月点検」があります。

定期点検は取扱店にご依頼ください。

※別途、使用頻度や車体の状態に応じたタイミングでメンテナンスを実施してください。

点検・整備

日常点検

日常点検は、日頃車両を使用していく中で、ユーザーの皆様が自分自身で行う点検です。

⚠ 警告

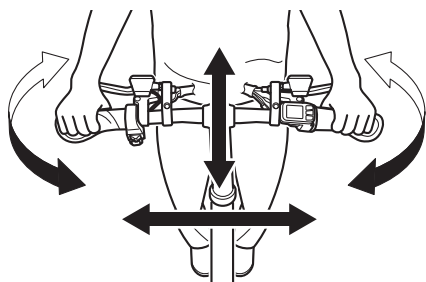
経年使用により、車両の各部が痛んだりネジが緩むことがあります。これらを放置して使用を続けると大変危険です。安全にご使用いただくために、乗車前に必ず点検を実施してください。

📖 メモ

点検をして、正常が確認できなかった場合は、取扱店にご相談ください。

ハンドルバーの点検

前輪を足で固定してハンドルバーを動かしたときに、力を入れてもハンドルバーが回ったり、抜けたりしないことを確認してください。

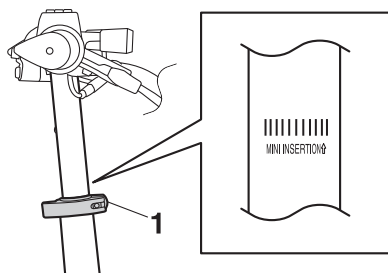


ハンドル高さ調整レバーの点検

シートの高さが、シートポストの表示を超えない範囲になっていることと、ハンドル高さ調整レバーが確実に固定されていることを確認してください。

📖 メモ

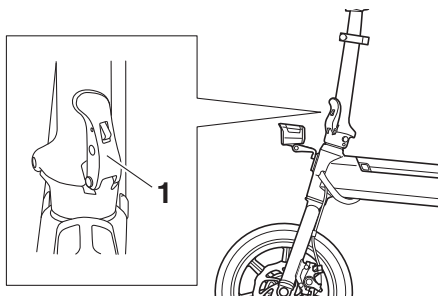
シートの高さが規定の位置になっていない場合や、ハンドル高さ調整レバーが確実に固定されていない場合は、30 ページ「ハンドルバーの高さの調整」を参照して、ハンドル高さ調整レバーを調節してください。



1 ハンドル高さ調整レバー

ハンドルポスト折畳レバーの点検

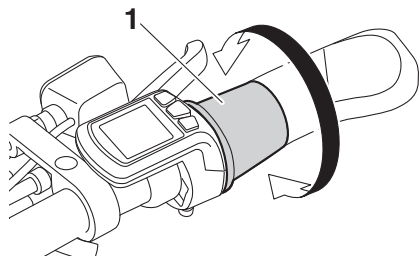
ハンドルポスト折畳レバーがしっかりとロックされていることを確認してください。



1 ハンドルポスト折畳レバー

スロットルの点検

車両がパワーオフの状態ですロットルを回したときに、スムーズに戻るか確認してください。



1 スロットル

ブレーキレバーの点検

ブレーキレバーを握ったときに、タイヤが確実に止まり、ブレーキレバーとグリップとの隙間“a”が基準値以上であることを確認します。

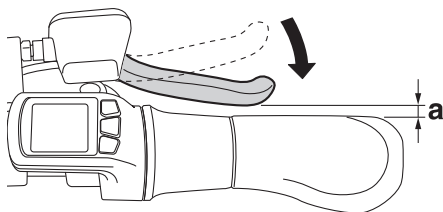
ブレーキレバーを握ったときのブレーキレバーとグリップの隙間“a”
20 mm 以上

警告

ブレーキパッドは消耗品です。ブレーキの利きが悪くなった場合には交換してください。

メモ

ブレーキの調整が必要な場合は、52 ページ「ブレーキの調整」を参照してください。



点検・整備

ブレーキの調整

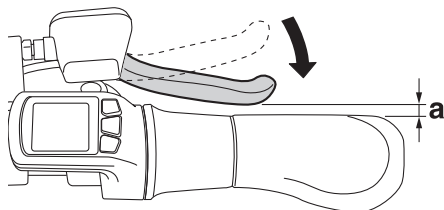
1 調整ダイヤルをブレーキパッドがローターに接触する手前まで反時計回りに回して、ブレーキの効きを調整します。

メモ

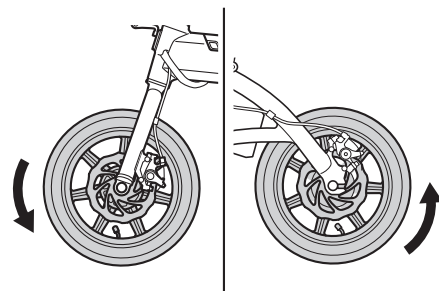
調整ダイヤルのネジ部分“a”が見えていることを確認してください。

ネジ部分が見えない場合、それ以上は調整ダイヤルでのブレーキ調整はできませんので、メンテナンス店へご連絡ください。

2 ブレーキの利きを確認して、ブレーキレバーを握ったときに、ブレーキレバーとグリップの間隙“a”が 20 mm 以上あることを確認します。

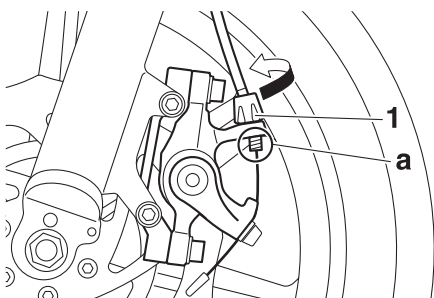


3 タイヤを空転させて、ブレーキから擦れる音がしないか確認します。

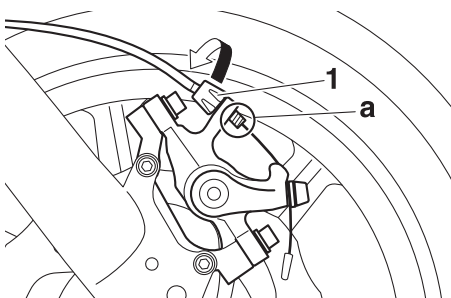


メモ

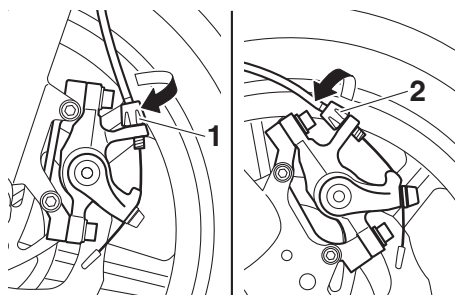
ブレーキから擦れる音がする場合には、調整ダイヤルを時計回りに少し回します。



1 調整ダイヤル (前輪ブレーキ)



1 調整ダイヤル (後輪ブレーキ)



- 1 調整ダイヤル (前輪ブレーキ)
- 2 調整ダイヤル (後輪ブレーキ)

4 手順 1～3 を行ってもブレーキが調整できない場合は、メンテナンス店へ依頼してください。

ブレーキワイヤーの点検

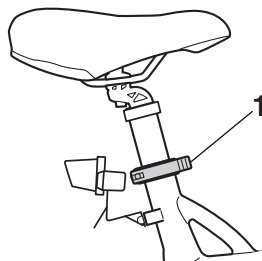
前後のブレーキのワイヤーに、サビや切れがないか確認してください。

シートポストクランプの点検

シートポストクランプが確実に固定されていることを確認してください。

メモ

シートポストクランプが確実に固定されていない場合は、29 ページ「シートの調整」を参照して、シートポストクランプを調節してください。



- 1 シートポストクランプ

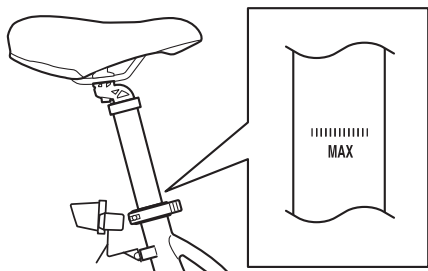
点検・整備

シートの点検

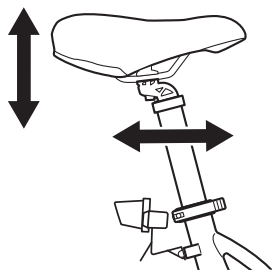
シートの高さは、シートポストの表示 (MAX) を超えない範囲になっていることを確認してください。

メモ

シートの高さが規定の位置になっていない場合は、29 ページ「シートの調整」を参照して、シートの高さを調節してください。

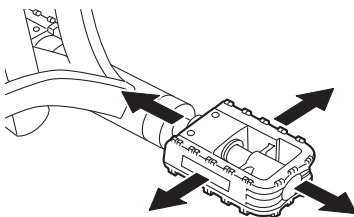


シートの前後を持って、上下・左右に動かしてください。力を入れても回ったり、抜けたりしないことを確認してください。



ステップの点検

ステップに、上下左右方向から力を加えたときにガタつきがないことを確認してください。



フレームの点検

ハンドルバー、ハンドルポスト、フレーム、フロントフォーク等の構造部材に、著しい外傷やたわみなどがなければ確認してください。

これらの部材に破損が見受けられる場合はただちに使用を停止し、お近くの取扱店へご相談ください。

バッテリーの点検

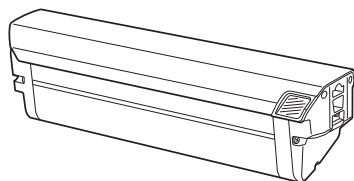
バッテリーは、自然放電します。車両を2週間以上ご使用にならない場合は、車両からバッテリーを取り外し、直射日光を避けて冷暗所で保管してください。

警告

バッテリー外装に破損があったり、凹みがあった場合は使用しないでください。

注意

- バッテリーは、車体に入れたまま長期放置すると、バッテリーの電圧が充電できないほど下がり、使用できなくなる恐れがあります。
- バッテリーは、車体から抜いた状態でも自然放電します。車体から抜いて保管する場合も、最低1ヶ月に一度は、補充電をしてください。
- バッテリーを1ヶ月以上使用しない場合は、休止状態にしてください。



タイヤの点検

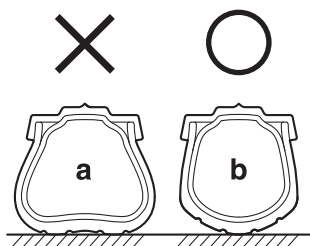
以下の現象が確認できたら、取扱店へ点検及び修理、交換等を依頼してください。

警告

- 空気圧が適正でないタイヤや、極度にすり減ったタイヤの使用は、転倒等、事故やトラブルを発生させる原因となり、死亡、もしくは重傷を負う可能性があります。
- 仕様のタイヤ寸法以外のタイヤを装着すると、操縦安定性に支障が発生し、転倒等、事故やトラブルを発生させる原因となり、死亡、もしくは重傷を負う可能性があります。必ず取扱店で指定のタイヤに交換してください。

空気圧の低下（タイヤがしぼんできた、地面への接地面がたるんできた、タイヤを押すと柔らかい等）

適正タイヤ空気圧
250 kPa (2.5 bar)



タイヤ断面図

- a 空気圧 不足
- b 空気圧 適正

メモ

- 空気圧は、時間が経過すると低下してきます。必ず点検してください。
- タイヤの空気圧調整は、米式バルブ対応で、空気圧計の付いた空気入れ（コンプレッサー）を使用してください。
- 空気圧は、適正空気圧を目安に、お使いの空気入れのゲージ単位に合わせてご確認ください。



- 1 亀裂や損傷がある
- 2 異物がある
- 3 溝が 1 mm 以下となっている
- 4 偏摩耗している

洗車

車両は通常に走行しているだけでも汚れま
す。
雨天時では、泥などが付着し、さらに汚れ
てしまいます。
また、雨水以外に海辺付近では、潮風など
により塩分が付着することがあります。冬
季は路面に散布された凍結防止剤などによ
り、錆が発生することがあります。車両を
長持ちさせるためにも、走行後はこれらを
除去するため、こまめに洗車をしてくだ
さい。

車両は防水構造になっていますが、完全防
水ではありません。
車両に水をかける際は、多量の水を集中的
にかけるようなことはしないでください。
洗車後は、ウエス等乾いた布で水分を拭き
取ってください。

洗車後にブレーキが濡れている場合、降雨
時と同様でブレーキの効きが悪くなります
ので、運転する際は、ブレーキを十分に乾
燥させてからご使用ください。

警告

- 高圧洗車機は使用しないでください。
- 洗車前にバッテリーを取り外し、水に濡れない場所に保管してください。
- フレームの下から上には水をかけないでください。水をかける際、水は上からかけるようにしてください。

各 부품の交換

ブレーキパッド、タイヤ等の消耗品、ヘッドライト、ウィンカー、テールランプなど各 부품の交換は、取扱店にてお買い求めと交換ができます。

つきましては、取扱店にお問い合わせをお願いいたします。

トラブルシューティング

「故障かな?」と思ったら、まずは以下をご確認ください。改善しない場合、わからない場合は、取扱店へご相談ください。

インフォメーション・ディスプレイがオンにならない

- インフォメーション・ディスプレイのパワースイッチを長押ししてください。
- バッテリーが充電されていることを確認してください。
- バッテリーが確実に取り付けられていることを確認してください。

出力が弱い、速度が遅い

- インフォメーション・ディスプレイに、バッテリー残量目安表示を確認してください。表示が0～1個の場合はバッテリーを充電してください。
- バッテリーの充電時間が長くなったり、満充電しても走行距離が短くなっているか確認してください。バッテリーの充電時間が長くなったり、満充電しても走行距離が短くなっている場合は、取扱店で新品をご購入し、お取り替えください。

メモ

急な上り坂や厳寒な環境では、バッテリーが通常の状態でも能力が低下し、モーター出力や速度が落ちるほか、航続距離も短くなります。

充電時間が長くなった

バッテリーが消耗しています。公式サイト、または取扱店で新品をご購入し、お取り替えください。

満充電しても、走行距離が短くなった

バッテリーが消耗しています。公式サイト、または取扱店で新品をご購入し、お取り替えください。

パンクした

装着しているタイヤは、電動バイク用のチューブタイヤです。取扱店でパンク修理を依頼してください。

バッテリーが充電されない

- バッテリーを長期間（1ヶ月以上）使用しないまま放置した場合、完全放電してしまうときがあります。完全放電してしまったバッテリーは、そのままでは走行にご利用いただけません。バッテリーを車両から外して、充電器を接続すると、回復充電を行います。この間、充電器のインジケーターLEDランプは点灯しません。回復充電が完了するとインジケーターLEDランプは赤色に点灯し、通常の充電が開始されます（回復充電には最大30時間程度かかる場合があります）。
- バッテリーの温度が高温または低温になると、充電が停止する場合があります。適正温度（約20℃）に戻ってから充電してください。

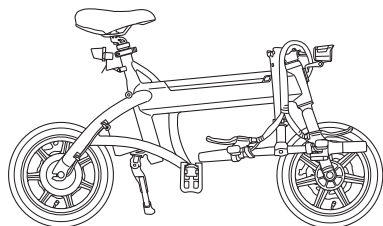
運搬・保管・廃棄

運搬

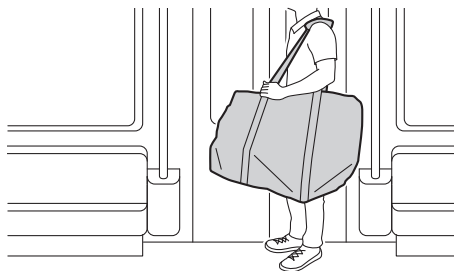
運搬する際は、折り畳んだ状態で運搬してください。

警告

運搬時、バッテリー落下の恐れを防ぐ為、バッテリーキーで必ずバッテリーをロックしてください。鍵の閉め忘れにご注意ください。



電車やバスに持ち込む場合は、ケースや輸
行バッグなどに入れて、車両が露出しない
ようにしてください。そして周囲の人に当
たらぬよう十分な配慮をしてください。
また、ご乗車される交通機関に事前に問い
合わせをし、持込について確認してくださ
い。



自動車で運搬する際は、車両が動かないよ
うに自動車へ確実に固定してください。

メモ

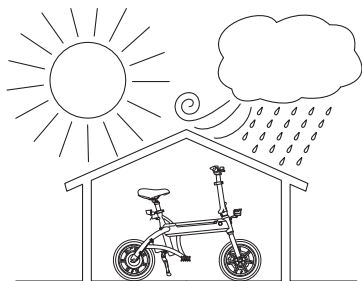
本車両のバッテリーは航空機には持ち込め
ません。

運搬・保管・廃棄

保管

保管する際は、盗難やいたずらなどされないよう安全な場所に保管してください。また、下記のような保管に適した場所をお勧めします。

- 平坦なところ
- 風雨にさらされないところ
- 風通しのよいところ
- 湿気のないところ
- 直射日光があたらないところ



屋外で保管される場合は、雨水などから保護するため、カバーなどを掛けてください。



車両を2週間以上ご使用にならない場合は、車両からバッテリーを取り外し、バッテリーを休止状態にしてください。また、バッテリーを保管する際は、直射日光を避けて冷暗所で保管してください。

メモ

バッテリーの休止は、27ページ「バッテリーの休止」を参照。

⚠ 注意

- バッテリーは、車体に入れたまま長期放置すると、バッテリーの電圧が充電できないほど下がり、使用できなくなる恐れがあります。
- バッテリーは、車体から抜いた状態でも自然放電します。車体から抜いて保管する場合も、最低1ヶ月に一度は、充電をしてください。

廃棄

廃棄する際は、取扱店もしくは最寄の「廃棄二輪車取扱店」にお問い合わせください。またバッテリーは、リチウムイオン電池です。資源有効利用促進法によりリサイクルが義務づけられているため適切に処理してください。

環境保護のためにも、むやみに捨てないでください。

ご不要になりましたNFR-01 Lite バッテリーの無償回収（送料はお客様負担）を行っております。

詳細はヘルプセンター（<https://support.glafit.com/hc/ja>）をご参照ください。

メモ

「廃棄二輪車取扱店」とは、廃棄二輪車を適正に処理することができる二輪車取扱店です。

廃棄物処理指定店として登録されている取扱店で、一般社団法人全国軽自動車協会連合会に登録している取扱店です。

廃棄二輪車取扱店票が店頭に掲出されています。



車両情報

仕様

車両型式	NFR-01 Lite
全長	1300 mm
全幅	560 mm 320 mm (折り畳み時)
全高	1080 mm (ハンドルポスト最長時) 720 mm (折り畳み時)
車両重量	19.5 kg (バッテリー装着時)
走行距離	定置走行測定：33 km ^{*1} JEMPA 規格測定：24 km ^{*2}
出力	0.35 kW
最高速度	車道専用：20 km/h ^{*3} 歩道可：6 km/h ^{*3}
バッテリー種類	リチウムイオンバッテリー
バッテリー電圧	36 V
バッテリー容量	7.8 Ah
充電時間	約 5 時間
駆動方式	インホイールモーター
タイヤサイズ (前輪・後輪)	14 × 2.125
適正空気圧 (目安)	250 kPa (2.5 bar) ^{*4}
制動装置形式	ディスクブレーキ
乗車定員	1 名
最大荷重	100 kg

※ 1：体重約 60kg のライダーが乗車し、サーキットコースで測定した値です。

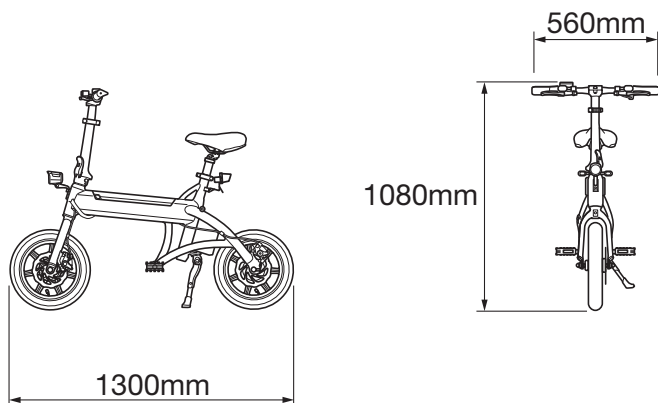
※ 2：JEMPA 規格とは、JEMPA が定めた特定小型原動機付自転車の航続距離測定方法です。

実際の走行では、荷重、風向き、勾配、外気温、発進・停止の頻度などの影響により、走行距離が記載値より短くなる場合があります。

※ 3：バッテリー満充電での平地走行時。バッテリー残量や荷重等により最高速度は低下します。

※ 4：お使いの空気入れのゲージ単位に合わせて、空気圧を確認してください。

車両寸法

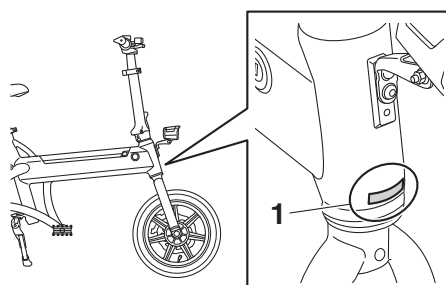


メモ

記載の寸法は目安となります。

車台番号打刻位置

車台番号はナンバーの登録や保険の加入などに使用します。



1 車台番号

索引

い	
インフォメーション・ディスプレイ	17
インフォメーションディスプレイがオンにならない	58
う	
ウィンカー / 最高速度表示灯	32
ウィンカースイッチ (方向指示器)	32
後面	10
雨天の運転	5
運搬	59
お	
オドメーター	19
か	
各部品の交換	57
け	
携帯方法	14
こ	
後輪ブレーキレバー	33
さ	
サイドスタンド	34
し	
シート	29
シート・シートポストの取り付け	13
シートの調整	29
シートの点検	54
シートポストクランプの点検	53
自賠責保険証の携帯	14
自賠責保険への加入	12
車台番号打刻位置	63
車両寸法	63
車両の折り畳み	44
車両の組み立て	46
充電器	28
充電時間が長くなった	58
出力が弱い、速度が遅い	58
仕様	62
乗車	40
す	
ステップ	34
ステップの点検	54
スロットル	33
スロットルの点検	51
せ	
洗車	56
前面	9
前輪ブレーキレバー	33
そ	
走行	41
走行時	34
走行モード切替ボタン	19
走行モード表示	20
た	
タイヤの点検	55
ち	
駐車時	35
駐輪	43
て	
定期点検	49
提示義務	14
点検・整備について	49

と		ハンドルバーの高さの調整…………… 30
特徴……………	1	ハンドルバーの点検…………… 50
トリップメーター……………	19	ハンドルポスト折畳レバーの点検…………… 50
な		ひ
ナンバープレートの登録……………	12	左側面…………… 8
に		表示切替ボタン…………… 18
日常点検……………	50	ふ
は		ブレーキ…………… 42
廃棄……………	61	ブレーキの調整…………… 52
バッテリー……………	20	ブレーキレバーの点検…………… 51
バッテリーインジケーター……………	21	ブレーキワイヤーの点検…………… 53
バッテリーが充電されない……………	58	フレームの点検…………… 54
バッテリー残量目安表示……………	20	へ
バッテリーの起動……………	15	ヘッドライト…………… 31
バッテリーの休止……………	27	ヘルメットを用意…………… 12
バッテリーの充電……………	25	ほ
バッテリーの充電 (バッテリー単体での充電)……………	24	法的背景について…………… 14
バッテリー電圧表示……………	19	ホーン…………… 31
バッテリーの点検……………	55	ホーンボタン…………… 31
バッテリーの取り扱い……………	20	保管…………… 60
バッテリーの取り付け……………	23	ま
バッテリーの取り外し……………	22	満充電しても、走行距離が短くなった… 58
パワーオフ状態での点検……………	36	み
パワーオン状態での点検……………	38	右側面…………… 7
パワースイッチ……………	18	ゆ
パンクした……………	58	ユーザー登録の実施…………… 12
ハンドルバー……………	11・30	わ
ハンドルバー高さ調整レバーの点検……………	50	ワイヤーロックの解錠番号の設定…………… 16

お問い合わせ

製品について、よくあるお問い合わせは以下からご確認ください。

ヘルプセンター <https://support.glafit.com/hc/ja>

製品に関するお問い合わせは、まず、お近くの取扱店へご相談ください。
お近くの取扱店で解決できない場合は、下記窓口にお問い合わせください。

glafit 株式会社 (グラフィット)

カスタマーサポートメール support@glafit.com

公式サイト <https://glafit.com>

glafit®

glafit 株式会社

〒640-8452
和歌山県和歌山市梅原579-1

© 2025 glafit 株式会社 PRINTED IN JAPAN GF-CSWN1L2-01